

「タスキを繋ぐ ～箱根駅伝大会エピソードから～」

校長 藤田 賢一郎

いよいよ3年生は卒業、1・2年生は進級に向けた大切な時期を迎えます。

3学期始業式で、次のように語りかけました。

1月2・3日、第98回東京箱根間往復大学駅伝が行われました。今年は、妙高市の笹ヶ峰でも強化合宿を行った青山学院大が大会新記録で優勝に返り咲きました。毎年、感動を呼ぶ箱根駅伝ですが、私が近年感銘を受けたエピソードを2つ紹介します。

一つ目は、2014年大会での山梨学院大チームです。区間賞候補筆頭のオムワンバ選手(2年)の活躍を、誰もが期待していました。期待どおり、オムワンバ選手はハイペースで、8キロ過ぎまでに5人を抜き去りました。しかし、直後に失速。9.7キロ地点では、路側帯に離脱し、倒れてしまいました。いったん立ち上がり再び走ろうとしましたが、激痛で動けず、ついに棄権。オムワンバ選手は救急車で病院に搬送されました。右足の腓骨骨折でした。もちろん、レースとしては、この時点で山梨学院大は途中棄権となりました。しかし、山梨学院大の選手たちは、その後も負傷したオムワンバ選手を思いながら箱根路を最後まで駆け抜けました。

上田誠仁監督は「記録には残らなくても、人々の記憶やチーム史には残った」と、松山雄太郎主将(4年)は「(棄権のために来年はシードなしで予選会からの参加となり)主将として後輩に良いスタートを残してやれなかったが、後輩たちは今日(復路)ですでに、気持ちを新たにリスタートができたのではないかと話していました。また、骨折で前年の箱根駅伝出場が叶わず、一年留年して挑んだ森井勇磨選手(4年)は、「オムワンバ選手もきっと大丈夫」、と自分の悔しさよりも仲間の復活を信じるコメントをしています。チームの絆の強さに、胸を打たれるエピソードです。

二つ目は、2013年の優勝校、日本体育大チームのエピソードです。前年20校中19位、それも中継所でもタスキをつなげず繰り上げスタートだったチームが優勝という、箱根駅伝史上もっとも劇的な勝利でした。どうしてたった一年で優勝チームにまで育つことができたのでしょうか。その秘密は、「生

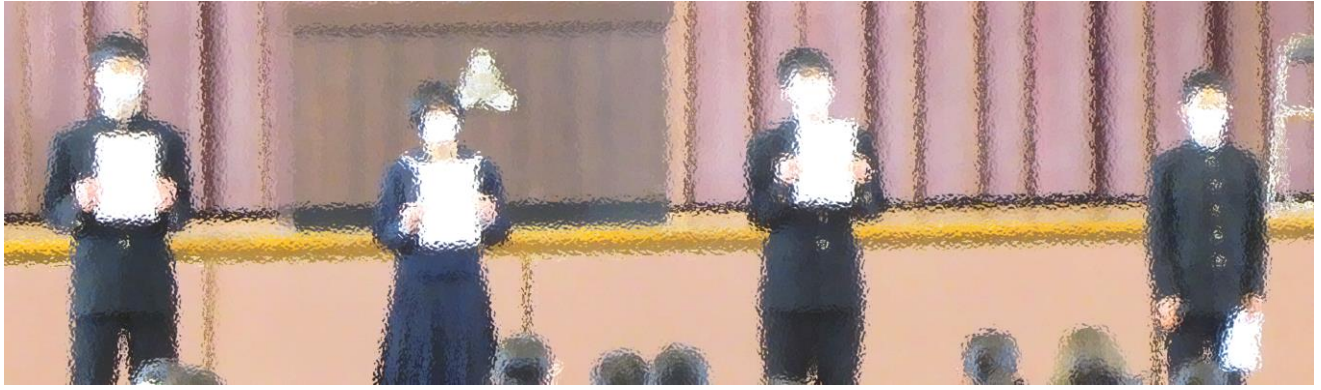
活習慣の改善」でした。19位に終わったチームの力を高めようと、別府監督は自分の恩師である渡辺氏にチームの指導をお願いしました。渡辺氏は、寮での選手の様子を見て、別府監督を叱りつけたそうです。「こんな生活をしている選手が強くなるはずがない。まず生活習慣を変えることから」と。それまでの日体大駅伝部は、「自由」が部のカラーとなっていました。そのため、草が生え放題のグラウンド、午前0時を過ぎても消灯されない風紀の乱れた寮生活など、とても体育の名門校とは思えない生活を選手は送っていました。渡辺氏の指導の下、別府監督は「午前5時50分から寮内を全員で清掃」「午後10時30分には就寝」「3度の食事をしっかりとる」「練習前にはグラウンド整備」「挨拶をしっかりとる」など、駅伝部員に人としてあるべき生活を徹底しました。部員は「最初は窮屈だったが、そのうち当たり前になった。走りにも安定感が出てきた」と話しています。こうして生活の改善を果たした日体大チームは劇的な優勝を果たしました。そして、もう一つ人々に感銘を与えたのは、優勝ゴール直後、選手同士で喜び合う前に全員で、応援してくれた人達へ頭を下げた、礼儀正しい姿でした。

自分たちの代では果たせなかった夢を次代につなげるために、棄権後も最後までタスキをつないだ山梨学院大チーム、優勝をチームで喜び合う前に応援してくれた人達への感謝を表した日体大チーム。みなさんは、それぞれのチームのエピソードを、どのように感じたでしょうか。

学級、学年、学校も、一つのチームです。3学期は3月7日の卒業式まで、登校する日は38日しかありません。この残り僅かな日々で、チーム3年生77名は、どんなタスキを後輩に受け渡してくれるのでしょうか。3年生が一層輝かせた板倉中伝統のタスキを、1・2年生チームが感謝と誇りに満ちた気持ちで引き継ぐであろう38日間の中で、たくさんの感動を呼ぶエピソードが生まれることを、私は楽しみにしています。

保護者・地域の皆様からも、有終の美を飾る3年生、タスキを引き継ぐ1・2年生に、ご支援をお願いします。

生徒会新役員の抱負



1月11日(月) 3学期始業式に、令和4年度生徒会三役と応援団長の任命式を行いました。それぞれが呼名をされると、頼もしい返事をし、堂々とした姿で校長先生から任命書を受け取りました。その後、新生徒会長のYKさんが大きな声で決意を述べました。今後は新総務を中心に1, 2年生が協力して、3年生から引き継いだ板中生徒会をさらに発展させていきます。以下、新役員4名の抱負の紹介です。

生徒会長 YK さん

生徒会長になったYKです。私は一人ひとりが活躍でき、ともに成長していける生徒会を目指します。そのため「アンケートの実施」「挨拶の強化」「仲間づくり」の3つを中心に活動していきます。これらの活動を通して全校生徒が明るくのびのびと生活できるように頑張ります。私は常に今の板倉中学校に必要なものは何か、それを実現するために自分には何ができるかを考え、自主的に行動していきたいと思います。三役が中心となり、学校を盛り上げるので皆さんも生徒会の活動に協力してください。これからよろしくお願ひします。

副会長 KH さん

僕は全校生徒みんなの仲が良く、協力し合える板倉中学校を目指します。そのために、全校で交流できる活動を多く作っていききたいです。また、挨拶の強化にも取り組み、学校全体の雰囲気をもくしていききたいです。

これらを実現させるため、自分のできることを考え、それを実際に行動に移したいです。1つ1つの活動に積極的に取り組み、全員が楽しいと思える活動にしたいです。みなさんと協力して、最高の板倉中学校を作っていききたいです。これから一年間、よろしくお願ひします。

副会長 HY さん

私は、生徒の皆さんが絆を深め、どんな時も励ましあえる板中をつくりたいと思っています。そのために、他学年と関わる機会を増やし、楽しんでもらえるように企画を考え実践します。

また、環境問題のことに意識を向け、自分たちにできることを考えて取り組んでいきたいと思っています。副会長に選出されたからには、期待に応えられるよう、何事にも一生懸命に取り組んでいきます。そして、皆さんの意見を大切に、生徒全員でよりよい板倉中学校を作っていききたいと思ひます。よろしくお願ひします。

応援団長 SR さん

僕が応援団長になろうと思ったきっかけは先輩方への憧れや自分も先輩みたいにかっこいい人になろうと思ったからです。

そんな先輩になるには、まず自分から行動することや大きな声で挨拶をすることを意識して責任感をもって生活するなど、当たり前のことをきちんとやることを忘れず生活して、全校のお手本になれるように頑張ります。

